和～繋がりを大切に～

2023．５．１．　２号

松戸四中　第３学年だより

学級目標が決定しました！

４月当初の学級活動で「学級目標」を生徒たちが考えました。どのクラスも真剣に考え、素晴らしい目標が決まりましたので、ご紹介いたします。

１組

２組

３組

４組

５組

６組

3年生になり1か月が経ちました！

３年生になり、１か月が経ちました。スタート時は緊張した様子が見られていましたが、少しずつ級友と打ち解ける姿を目にします。４ 月の初めに「３年生になって」の作文を書いたので、紹介させていただきます。

１組　Ｙ．Ｋ

「おはよー。」　なじみのあるクラス。なじみのある声。この光景が見慣れなくなるのが寂しいような感じがした。

いよいよクラス発表。仲の良い友達と６組から見に行った。でも６組から２組までに私の名前が無かった。まさかとは思っていた。３年間同じ担任。１組の表を見て私は嬉しかった。好きな先生、面白い友達、良い人しかいなかった。

最初は席の近い子と気軽に話せた。今、自分が思うことは１年の頃から成長したなということだ。友達を作るのにも気軽に話かけに行けたと思う。

私は人の関りっていいなって改めて思えた。自分が人と人をつなげる事で友達が増える。それが楽しいと初めて思えた。

「えっと、３年１組の担任になりました。宜しくお願いします。」

なじみのある声だった。

２組　Ｉ．Ｍ

ドキ、ドキ、ドキ、春になり、私は最上級生である、三年生になった。二年生の時、初めてできた後輩との生活は、なぜかなかなか慣れなかった。一年生のころ、あれほど長いと感じた時間は、なぜかものすごく短く感じた。そして今、私はたくさんの「なぜ」に囲まれながら三年生として教室にいる。

だけど、私はもう最高学年で、後輩はさらに増え、受験生としての勉強をしなければならない。今まで目標としていた先輩もいなくなり、自分が今度は目標となる存在にならなければいけない。私は、やらなければいけないことにも囲まれ、正直すごく不安だった。

そこで私は考えた。全て明るくポジティブに考えることだ。私を囲む、たくさんの疑問は、良く言えば、新しいことに囲まれ、たくさんの物に興味がある。とも言える。しなくてはいけないことも、目標、と言える。だから私の心臓は、三年生になった今でも変わらず、動くのだろう。ドキ、ドキ、ドキ、

３組　Ｍ．Ｒ

「学校行くのちょっと怠いね。」
春休み明け、友人との最初の会話がこれだった。いつも話すような会話、別に春休みがあったからといって話すことは変わらないし、今さら春休みどうだった？なんて話すこともない。だけど今日の朝は、今まで生きてきた中で１番怠かった。なんでかって、これから新しい学年、３年生としての学校生活が始まるからだ。中３になるということは学校の中で一番先輩になるということだし、それにつれて行動一つ一つに責任がともなう、そしてなによりも辛い受験をすることになる。

「辛いなら受験なんてしなければいいじゃないか。」
と思う人もいるだろうが、そういう訳にはいかない。なんでかって？それは高校に行かないと良い所に就職できない。良い所に就職できないと、お金があまりもらえない。お金がもらえないと、裕福な生活ができないということだ。誰も貧しい生活なんてしたくないだろう。だから受験は必要なのだ。だが受験をするということは、ずっ～と勉強しなければいけないということだ。たとえ大好きなゲームの最新作が発表されても、好きなアニメがやっていても、好きなゲームが好きなアニメとコラボしていても勉強しなければいけないということだ。あぁ、そんなことを考えていたら足がどんどん重くなってくる。高校生活はきっと楽しいだろう。新しい友達、新しい学校、ひょっとしたら彼女さえもできてしまうかもしれない。でも、それまでの１年間が相当辛いだろうな。ひたすら机に向かってペンを走らせ、ひたすら問題を解かなければいけないと思うとマジで辛い。

「あぁ、嫌だな。学校に行きたくないなぁ。」　そんなことを考えていたら、もう目の前は学校だ。

「まぁ、頑張るしかないか！」　と一人、校門の前でつぶやいた。

４組　Ｋ．Ｙ

「春休みあっという間だったね。」
友達といつも通り会話しながら始業式がある学校へ向かっている。もう少しで学校に着くというところで、だんだん緊張感が強くなってくる。クラスが替わり３年生になるという実感がとても高くなった。学校に着き、校舎に入り、前回のクラスの２年２組へと向かった。春休み明けの２組は、今日が始業式だということを忘れさせるくらいにいつも通りだった。いよいよクラス発表が近くなると同時にクラス全体がだんだんと静かになってきた。いよいよクラスが発表された。

「一緒だね！」
周りからは喜ぶ声や少し残念だという声がたくさん聞こえてきた。僕は３年４組になった。あまり分からない人が多くいて不安な気持ちになったが、クラスへ行くと思っていたよりも全然大丈夫で、不安な気持ちは無くなった。この新しいクラスで１年間楽しく過ごし、思い出に残る学校生活にしたい。

５組　Ｓ．Ａ

「髪 のびたね。いつ切るの？」　最近こう言われることがよくある。私の髪の長さは結ぶと目立たないが、結ばないと長いことがよくわかるくらいの長さだ。こんなに長くなっても切らないのには、理由がある。

入学して二日程たった日に、髪を肩につかないあたりまで切った。もう中学生だし、新しい自分になりたいと思い、美容院に行った。あの日からもう二年がたち、とうとう中学三年生になってしまった。

二年間、色々なことがあった。部活で上位の大会で良い賞をもらったり、反対にストレスや重圧感で押しつぶされそうになったりもした。それでも私は二年間止まらずに、ずっと前に進んできたのだ。長い髪はその証だ。

「いつ切るの？」の答えは、私にも分からない。だけど中学校生活最後の一年も、止まることなく進み続けたい。進み続けて努力を続け、一年後には新しい姿が似合う高校生になっていたい。

６組　Ｉ．Ｍ

少し明るい天井。いつもと変わらない風景が今日は少し違って見える。今日から中学三年生、私と私の将来に関わる受験という大きな挑戦との戦いが始まろうとしていた。学校に近づくにつれ足どりが重くなっていくのが感じられた。ワクワクという気持ちよりも、不安や怖いという気持ちの方が強かったのだ。そして、２年４組で過ごす最後の時間がやってきた。手と手を重ねる。「おー！」と言って、手を天井に掲げて、別れを惜しんだ。そしてついに、クラス発表。１組から順番に見に行くにつれ、胸の音が大きくなり、全身に響く。そして残るは６組だけとなり、急いで６組の所に目をやると、私の名前がそこにあった。仲の良い子がいるか探すと仲の良い子が何人かいて、少しほっとした。そして、まだ緊張と不安が残る中、慣れない教室に入る。時間が経つにつれクラスの温かさが感じられ、緊張がほぐれていった。受験と戦う１年だが、最高の１年になる予感がした。